

配信5000号に寄せて

株式会社デジタルストリーム DS Audio

川又様、そしてハルズサークル読者の皆様へ

通算5000号、誠におめでとうございます。26年間、一度も途切れさせることなく書き続けるという行為の重みは、同じくものづくりを続ける立場から見て、想像するに余りあります。

今回のご案内の中で、川又さんは「メールマガジンという手段はもはや古いものとなってしまった感がある」と書かれていました。私は、まったく逆の見方をしています。

これから、AIによって情報の標準化は急速に進んでいきます。製品のスペックも、評価も、比較も、誰が調べても同じ答えが返ってくる。均質で、正確で、そして誰のものでもない情報が世界を覆っていきます。

そうなったときに、何が価値を持つのか。人間が書いた文章です。一人の人間が、自分の耳で聴いて、自分の言葉で書いた、たった一つの感想。要約のきかない主観、その人にしか書けない一文。これは、標準化された情報がいくら増えても代わりが利きません。むしろ、標準化が進めば進むほど、その希少性は上がっていくはずです。

川又さんが26年間積み上げてこられたのは、まさにその主観の蓄積です。それが古くなったのではなく、ようやく時代のほうが、その価値に追いついてきたのだと思います。

そしてもう一つ、私が確信していることがあります。時代がどれだけ変わっても、音楽の価値は変わらない。それどころか、これから高まっていくということです。

情報が均質になり、多くのものが自動化されていく世界で、人が自分の時間を使ってでも得たいと思うものは何か。それは、その人自身にしか起こらない出来事です。一枚のレコードに針を下ろして、その部屋のその瞬間にしか鳴らない音を聴く。世界で一度きりの、唯一無二の時間です。誰にも譲れず、何にも置き換えられない。そういうものの価値が下がる未来を、私は想像できません。

弊社は2013年に、光カートリッジという方式を世に出しました。LEDの光でレコード針の動きを読み取る、MMでもMCでもない方式です。

これを説明するのは、本当に大変でした。カタログには出力電圧やインピーダンスといった数値が並びます。しかしMMやMCとは仕組みそのものが違うため、同じ項目に同じ単位で書かれていても、意味が違ってしまふ。数字を見比べても、この製品がどういう音を出すのかは分からないのです。

ですから私たちは、聴いていただく以外に伝える方法がありませんでした。実際に鳴らしていただき、聴いた方が自分の言葉で誰かに伝えてくださる。その積み重ねだけで、ここまで来ました。

そして、これはまさに川又さんが26年間やってこられたことそのものです。ご自身のフロアーで実際に鳴らし、その音を確認した上で、自分の言葉で書く。読んだ方が想像し、興味を持ち、また聴きに行く。ハルズサークルとは、その循環を26年間止めずに回し続けてきた場所なのだと思います。私たちのような、聴いてもらわなければ何も始まらない製品をつくる者にとって、これほどありがたい存在はありません。

これからも私たちは、聴いていただかなければ伝わらない製品をつくり続けます。音楽の価値が高まっていくこれからの時代に、その体験を少しでも深いものにすることで貢献できればと思っています。

5000号、そしてその先へ。心よりお祝い申し上げます。

株式会社デジタルストリーム 代表取締役

青柳 哲秋

DS Audio <https://ds-audio.biz/>